

学力向上に向けた  
**5**つの提言

**理解 継続 自校化**

**宮城県教育委員会**

令和3年

「学力向上に向けた5つの提言」は、宮城県の喫緊の課題である学力向上を図るために、精神科医、大学教授、市町村教育委員会教育長、PTA代表、小・中学校教員等を委員とした緊急会議を開催し、平成25年10月16日に提言として、全ての教員が実践化に努めていく内容をまとめたものです。

これまでの取組、そして今後の取組について、一人一人立ち止まって考えてみましょう。

## 「学力向上に向けた5つの提言」を 子供たちはどのように受け止めているのでしょうか？



宮城県児童生徒学習意識等調査の結果を活用して、皆さんの学校の様子と自分自身の取組を振り返ってみましょう。そこから子供たちの「5つの提言」の受け止め方を確認してみましょう。

令和3年度の児童生徒学習意識等調査の「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の合計の割合（％）と、同調査の学校質問紙調査の「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる」と回答した学校の合計の割合（％）を確認してみましょう。

また、自分の取組についても振り返り、「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる、C：どちらかといえば当てはまらない、D：当てはまらない」の範囲で評価してみましょう。

### ○提言1 声を掛けてもらっている？ 話を聞いてもらっている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか。			
2 先生はあなたの話を聞いてくれますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか。			
2 児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか。			

### ○提言2 ほめてもらっている？ 認めてもらっている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか。			

**○提言3 授業のねらいが明確だと感じている？  
授業のまとめができていますと感じている？**

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。			
2 授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒に対して、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れられましたか。			
2 児童生徒に対して、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか。			

**○提言4 ノートに考えを書いている？**

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒に対して、ノートのとり方(ワークシートやプリント類を除く)を指導しましたか。			
2 児童生徒に対して、自分の調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。			

**○提言5 家庭学習をしている？**

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 家で、学校の宿題をしていますか。			
2 家で、学校の授業の復習をしていますか。			
3 家で、学校の授業の予習をしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。			
2 児童生徒に対して、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。			
3 児童生徒の保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促す働き掛けをしましたか。			

5つの提言 宮城

検索

「5つの提言」の内容の確認と様式のダウンロードはこちら！

# 子供たちと先生方の意識はそろっているでしょうか？



令和元年度から令和3年度まで実施した児童生徒学習意識等調査の3年間の結果から、「5つの提言」それぞれについて、子供たちと先生方の意識の乖離について考えてみましょう。

上段○：児童生徒質問紙 下段●：学校質問紙

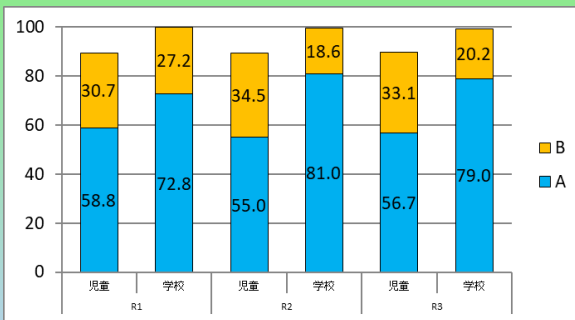
## 提言3

- 授業の中で先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか
- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

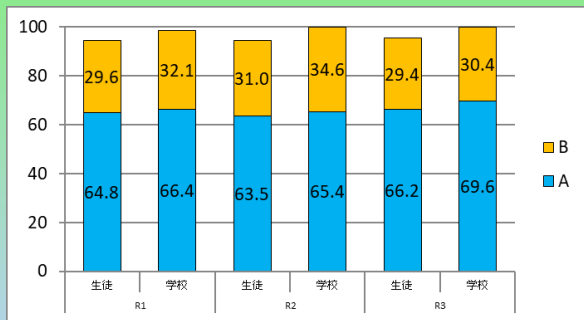
高い数値を維持

	R 1			R 2			R 3		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校									
A + B	89.5	100.0	-10.5	89.5	99.6	-10.1	89.8	99.2	-9.4
中学校									
A + B	94.4	98.5	-4.1	94.5	100.0	-5.5	95.6	100.0	-4.4

### 【小学校】



### 【中学校】



■ A：当てはまる（そう思う） ■ B：どちらかといえば当てはまる（そう思う）

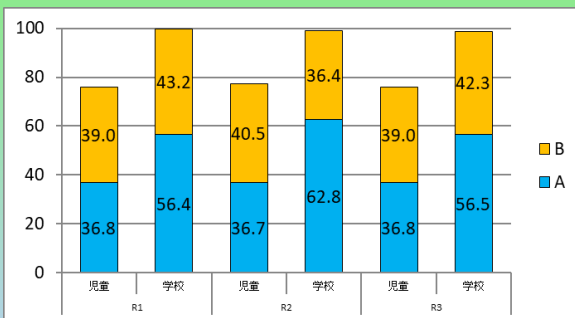
## 提言1

- 先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか
- 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましたか

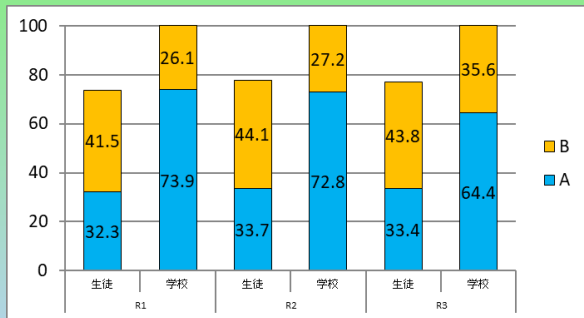
依然として  
かい離あり

	R 1			R 2			R 3		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校									
A + B	75.8	99.6	-23.8	77.2	99.2	-22.0	75.8	98.8	-23.0
中学校									
A + B	73.8	100.0	-26.2	77.8	100.0	-22.2	77.2	100.0	-22.8

### 【小学校】



### 【中学校】



依然として  
かい離あり

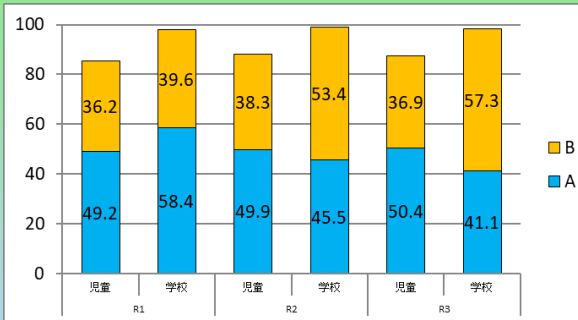
**提言 2**

○先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか

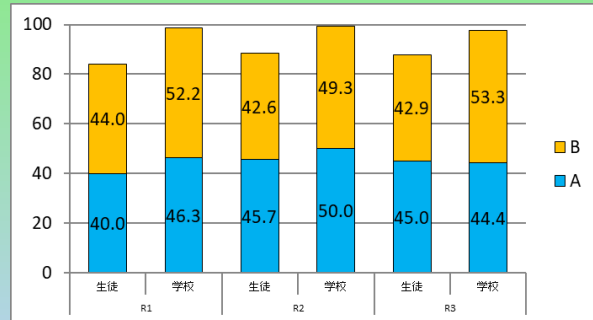
●学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか

	R 1			R 2			R 3		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校									
A + B	85.4	98.0	-12.6	88.2	98.9	-10.7	87.3	98.4	-11.1
中学校									
A + B	84.0	98.5	-14.5	88.3	99.3	-11.0	87.9	97.7	-9.8

【小学校】



【中学校】



**提言 3**

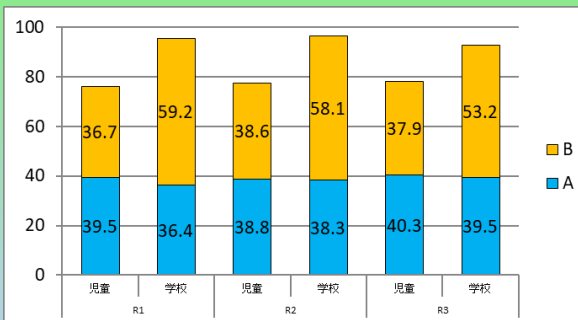
○授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか

●授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

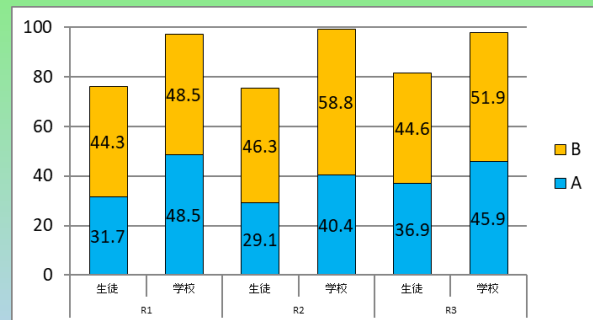
依然として  
かい離あり

	R 1			R 2			R 3		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校									
A + B	76.2	95.6	-19.4	77.4	96.4	-19.1	78.2	92.7	-14.5
中学校									
A + B	76.0	97.0	-21.0	75.4	99.2	-23.8	81.5	97.8	-16.3

【小学校】



【中学校】



# 5 学力向上に向けた 5つの提言 の充実のための「3つの柱」

理 解

継 続

自校化

## 理 解

なぜ、「5つの提言」が設定されたのか。その一つ一つの意味をもう一度確認し、先生方で共通理解をした上で、実践することが大切です。

提言の意味を理解した取組は、先生方の考えや思いを児童生徒にしっかり伝えることになり、一層充実した実践へとつながります。

### それぞれの提言の意味を確認しましょう

- 提言 1 子供たちの心のケアや人間関係づくりのために
- 提言 2 子供たちの自己肯定感と自己有用感を育み、学習への集中力を高めるために
- 提言 3 1単位時間で育てる力を明確にするために。子供の学びを的確に把握し、後の指導に生かすために
- 提言 4 思考力、判断力、表現力等を育てるために
- 提言 5 知識や技能の定着や授業での理解を早めるために。保護者が子供に声を掛けたり、子供の努力を認めたりすることができるようにするために

### 次のような意味も含んでいます

- ◆ 提言 1, 2 先生と子供たち、子供たち同士の信頼関係が学力向上及び生徒指導の基盤であること
- ◆ 提言 3, 4 授業の基礎・基本の一つであり、どの授業でも必ず行われているべきものであること
- ◆ 提言 5 家庭学習の充実は、授業において提言 3, 4 が実践されていることが前提であること

## 取組事例

### 〈小・中学校の取組〉

- 年度初めの校内研究全体会で、提言の一つ一つについて確認する場を設け、具体的な実践内容とその意味について、共通理解を図っています。
- 子供たちが1年間の振り返りを記入する「自己評価表」に、「5つの提言」に関する項目を設定し、記入させています。その結果を踏まえて、次年度の指導に生かしています。
- 「5つの提言」を学校だよりに掲載したり、学年懇談会で説明したりして、保護者にも内容を理解してもらい、協力して取り組んでいけるように努めています。

## 継 続

授業づくり、学級づくりの基盤とも言える「5つの提言」は、当たり前のことだからこそ、地道に、そして着実に継続することが大切です。

### 学校生活のあらゆる場面で継続しましょう

子供と関わる全ての先生方の目と、耳と、言葉と、全身で「子供に声を掛ける」、「子供の声に耳を傾ける」、「子供をほめる、認める」を学校生活のあらゆる場面を使って継続して実践することが大切です。その際、次の点に留意することが必要です。

- 発達の段階を踏まえ、その子供に適した声の掛け方、ほめ方をしましょう。
- 先生方で情報交換しながら、その子供のよさを見逃さずにほめ、認めましょう。
- 自分の気持ちや考えを声や行動に表すのが苦手な子供がいることを理解しましょう。全ての子供たちに声を掛け、言葉に耳を傾けましょう。

### 取組事例

- 「九九暗唱チャレンジ」、「週末算数オリンピック」、「マラソンカード」、「縄跳び検定」など、様々な場面で児童の努力や挑戦しようとする意欲を認め、主体的に取り組む態度を育てています。
- 休み時間にも全ての教職員が意識して生徒に声を掛けることに取り組んだことで、生徒にとっても気軽に話せる環境になり、授業でも主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。

### 終結まで確実に終える授業を継続しましょう

1 単位時間を計画どおりに終わらせることは、授業の基本です。

- 「ねらい」の提示と「振り返り」を毎時間継続して行うことで、子供たちが1 単位時間の「ねらい」と「まとめ」を一体として理解できるようにしましょう。
- 指導内容のまとまりによって、2 単位時間でねらいを達成する授業もあります。指導計画をきちんと立て、1 時間目、2 時間目それぞれのねらいとまとめを明確にし、子供たちが2 時間で最終的なねらいを達成できた実感できるようにしましょう。
- 子供たちが自分で考えたり、まとめたりすることができるように、時間と手間を掛けてノートの使い方を指導する必要があります。全教科で繰り返し指導しましょう。
- 「1 時間目の授業が延びてしまったため2 時間扱いになってしまった・・・」とならないように教科部会で指導計画を検討し、作成しましょう。

### 取組事例

#### 〈小学校の取組〉

- 単元計画を工夫し、授業の「振り返り」には毎時間必ず適用問題を入れることで定着率がアップしてきました。
- ノートの使い方を統一して指導したことで、「振り返り」に役立つ見やすいノートを作る児童が増えてきました。

#### 〈中学校の取組〉

- 教科部会で授業の流れ、自己評価の方法などを検討し、学期ごとにその見直しを行うことで、教科の先生方全員の力が高まってきました。

#### 〈小・中学校の取組〉

- 校内研究会で全国学力調査の問題を全員で解き、学習指導要領の内容と照らし合わせることで、重点を置いて指導する内容が明確になりました。
- 学習指導要領の内容を教科部会で確認したことで、授業のねらい、留意点、指導内容の系統性を明確にすることができた。

## 9年間の 継続 を図りましょう

小学校6年間、中学校3年間の9年間において継続し実践することが大切です。

- 小学校1年生から6年生まで、中学校は1年生から3年生まで同じ約束事を実践すること、発達の段階に応じ学年によって変えていくことを学校として明確にしておきましょう。
- 発達の段階に応じた「5つの提言」の実践により、子供たちにとって切れ目のないものになるようにしましょう。
- 小・中の連携を図り、9年間の継続した実践となるようにしましょう。

### 取組事例

#### 〈小・中学校の取組〉

- 小・中学校9年間を見通して、中学校区で共通に実践する学習ルールを決め、各教室に掲示するなどした結果、小学校から中学校への学習の移行がスムーズになってきました。
- 小・中学校の授業を互いに見合う機会を設けた結果、指導内容や指導方法など、系統性を意識した指導を大事にするようになってきました。
- 小・中学校9年間の系統を分析し、身に付けさせたい力を示した「単元構想表」を各教科で作成し、実践したことで、既習事項の確認や、活用を図る授業を展開しやすくなりました。

## 自校化

児童生徒の実態、学校の実情は、それぞれの学校で異なります。全ての学校で同じように取り組めることもあります。自分たちの学校ならではの取組を検討し、自校化を図ることが大切です。

### 自校のよさと課題を踏まえた自校化を図りましょう。

自分たちの学校のよさと課題を先生方で話し合い、共通理解を図り、共通に実践することが大切です。

- 「信頼関係がまだ十分とはいえない」、「児童生徒が授業に集中できていない」、「家庭学習の習慣が身に付いていない」等のそれぞれの学校の課題に対して、特に重点を置く提言を決めることも大切です。
- 「信頼関係がまだ十分とはいえない・・・」と同じ課題を抱えた学校でも、学校の持ち味や強み等の状況により、**提言1**に重点を置く学校、**提言3**に重点を置く学校等、違いが出ることもあります。
- 重点を置く提言について、保護者に説明し、理解と協力を得ることも大切です。特に**提言5**「家庭学習の時間を確保すること」の実践には必要となります。
- 各学校の課題を踏まえて実践したことに対する評価が大事です。PDCAサイクルを確立していくことが提言の充実につながります。

### 取組事例

#### 〈小学校の取組〉

- 今年度の努力事項として、「脱ワークシート」を掲げ、全教員で実践に努めることで、ノートの活用が一層図られてきました。

#### 〈小・中学校の取組〉

- 家庭学習や宿題について校内で共通理解を図り、保護者と連携して授業と家庭学習のサイクルの確立に努めたことで、自主的な学習態度が育ってきました。